



図 9. 諏訪之瀬島 爆発的噴火の日別発生回数及び噴火の発生状況 (2004年1月～2006年2月) ↑は噴火発生日

距儀による地殻変動繰り返し観測で、2005年9月までは新岳火口を中心に膨張傾向がみられたが、今回の観測ではその傾向が停止したようにみられる。また、地磁気全磁力繰り返し観測では、2005年9月まで新岳火口周辺の温度上昇を示唆する傾向がみられていたが、今回の観測ではその傾向が停止したようにみられる。

*) 2005年12月15～28日は京都大学のデータによる。

▲諏訪之瀬島 (29°38'18"N, 129°42'50"E (御岳))

2月6～9日及び23日に小規模な爆発的噴火が多発した。

1月1日, 9～11日, 17～19日, 1月25日～2月1日, 6～10日, 13日, 15～18日及び22～24日に噴火が観測された。特に、2月6～9日及び23日には小規模な爆発的噴火が多発し、6～9日に187回, 23日には41回観測された(図9)。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、1月1日, 10日, 18日, 25日及び2月24日に集落(御岳の南南西約4km)で、2月23日には切石港(御岳の南約3.5km)で降灰があった。1月10日午後には集落で3回の爆発音が聞こえ、ガラスが揺れるほどの空振があった。2月7～9日には集落で空振があった(7日の空振はふすまがガタガタ揺れる程度)。また、2月23日には集落で鳴動⁷⁾が聞こえた。

監視カメラ(御岳の北北東約25kmの中之島に設置)による観測及び同出張所からの報告では、噴火による噴煙の最高は火口縁上1,000mであった。

火山性微動は、噴火活動の活発化に伴い、1月24日～2月1日, 6～10日, 15～17日及び22～25日に振幅のやや大きなものが断続的に観測された。火山性地震も、噴火活動の活発化に伴い、2月6～10日, 15～17日及び23～24日に増加し、2月23日には296回と多発した。

⁷⁾火山活動に伴って聞こえる音のことで、「ゴー」という低い音で聞こえることが多く、噴火や活発な噴煙活動などが原因と考えられている。地震動に伴う音響は一般に地鳴りと呼ばれているが、火山周辺ではこれも鳴動と呼ばれることがある。爆発的噴火に伴って聞こえる爆発音は鳴動と区別される。

(文責: 気象庁火山課 長谷川嘉彦)

○科学技術コミュニケーター研究会のお知らせ

研究会名: 第一回 MAJESTY セミナー

日 時: 2006年4月21日(金) 13:30～17:30

(13:00 開場)

場 所: 早稲田大学 小野記念講堂

対 象: 科学技術ジャーナリズムに関心のある方ならどなたでもご参加頂けます。

費 用: 無料

参加方法: 事前申込み制です。次の URL より申し込みお願い致します

⇒<http://www.waseda-stj.jp/>

目 的: 脳科学者である養老孟司先生に「科学技術ジャーナリストに求められるもの」と題してご講演頂きます。また、各メディアで活躍されている現役の科学技術ジャーナリストの方々をお招きし、理系白書シンポジウムを開催致します(早稲田大学・毎日新聞社共催)。このシンポジウムでは、科学技術を実際にどう伝えていくのか、またそれに対する今後の展望などについてパネルディスカッションを行います。

【タイムスケジュール】

13:00 開場

13:30～14:00 イントロダクション

14:00～14:50 第一部 基調講演 養老孟司

講演題目: 科学技術ジャーナリストに求められるもの

14:50～15:00 休憩

15:00～17:30 第二部 理系白書シンポジウム

早稲田大学・毎日新聞社共催

タイトル: 科学技術をどう伝えるか

～ジャーナリズムの可能性～

□パネリスト: 西村吉雄(早稲田大学教授, 元日経エレクトロニクス編集長), 松本俊博(NHK 科学環境番組部チーフプロデューサー), 元村有希子(毎日新聞科学環境部記者, 「理系白書」ブログ管理人), 湯本博文(学研「大人の科学」総合プロデューサー, 科学創造研究所所長), 横山広美(サイエンスライター, 総合研究大学院大学上級研究員)

□司会: 瀬川至朗(毎日新聞科学環境部長)

(16:15より15分間休憩)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月5日送信しました)

○火山防災の集まりのお知らせ

下記の通り、日本地球惑星科学連合2006年大会期間中に、火山防災委員会を開催いたしますので、ご参集く

ださい。

火山防災委員会世話人 荒牧重雄, 三宅康幸, 中村洋一
日時: 5月15日(月) 18-20時

会場: 幕張メッセ 国際会議場 3F 301B号室
プログラム(予定)

1. ストラテジー部会(荒牧重雄)
話題提供: 「最近のニュースと話題」
2. ハザードマップ部会(中村洋一)
話題提供: 日本火山ハザードマップデータベース DVD版の刊行について
佐藤照子(防災科学技術研究所)
中村洋一(宇都宮大)
3. 市民教育部会(三宅康幸)
話題提供: だいちでの火山観測について
古屋正人(東大地震研)
4. Cities on Volcanoes 5 (2007.11.19-23) 島原開催
と火山防災委員会の役割
中田節也(東大地震研)

「火山防災委員会」は委員会といっても、委員を限定してそれ以外の人々を除外する会ではありません。日本火山学会の会員諸氏には完全にオープンな会議であります。ご遠慮なく、自由に会議に出席し、討論に参加してください。また、日本火山学会の会員でなくても、会議に自由に参加できますので、これらの話題に関心のある方にも、お知らせください。

【当日のみに参加される方へ】学会の当日参加登録費は8,000円(24時間)です。ただし、防災委員会の夜間小集会のみ参加される方へは、会場への入場が無料になる「会合名札」を用意します。これは会合開催前30分からのみ有効です。名札は1階総合受付カウンターの「会合受付」にて各自お受け取りください。また、会合が終了後、同受付へ必ず返却ください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月12日送信しました)

○AGU/VGP セクション Bowen Award 推薦のお願い

本年もAGU(American Geophysical Union)/VGP(Volcanology, Geochemistry and Petrology)セクションのBowen Awardの推薦締切が近づきました。日本国内からも多数の応募をいただきますようお願いいたします。応募の詳細に関する情報は、以下にお問い合わせ下さい。

jkimura@riko.shimane-u.ac.jp

木村純一(島根大学・総合理工学部)

<http://vgp.agu.org/>

VGPウェブサイトのアドレス

Norman L. Bowen Award

(a) About: The award is given annually for outstanding contributions to volcanology, geochemistry or petrology. The contribution may be: (1) a single outstanding paper published in any journal; (2) a series of papers which, taken together, constitute an outstanding contribution; or (3) any other contribution that the Selection Committee considers worthy. Special consideration is given to nominees who have not previously received a medal.

(b) Selection Committee: Dominique Weis (Chair), Marc Hirschmann, JunIchi Kimura, Matt Kohn, Bill Rose, Paul Wallace

(c) Nominations: Deadline May 1, 2006

The nomination file should include:

- (1) a nominating letter from a colleague,
- (2) a CV for the candidate,
- (3) a list of publications for the candidate,
- (4) three letters of recommendation (no more or less)

from colleagues that are neither from the candidate's current institution nor from the candidate's Ph.D. institution. Nominations should be sent to: Dominique Weis, Univ British Columbia, Pacific Cntr Isotopic and Geochem Rsch, 6339 Stores Road, Vancouver, BC V6T 1Z4, Canada (work: 604-822-1697, facsimile: 604-822-6088, email: dweis@eos.ubc.ca)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに4月17日送信しました)

○住所変更手続きのお願い

1. 新年度に入り異動や大学卒業修了等に伴う住所変更が生じた会員の方は、事務局(kazan@khaki.plala.or.jp)まで、新住所、メールアドレス、所属、会誌配送先等を至急お届け下さい。

2. 上記会員の同僚や指導教員等の関係者にあっては、重複があっても構いませんので、事務局まで氏名、異動先・連絡方法等(できるかぎりメールアドレス)をお知らせ下さい。例年、年度代わりでの住所不明会員が急増する結果、会費未納額が急増し学会の財務運営・会員管理に多大な影響を与えますのでご協力をお願いします。

なお、新住所等を登録される場合には会誌や名簿上での非公開希望項目があれば同時にご連絡下さい。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに送信しました)